

科目の設定及び設定理由

1. 基礎分野

- 1) 英語は学生の高校までの英語力を考慮して医学英語も含めて、2科目設定して、人間と生活、社会の理解の中に設定した。
- 2) 「看護情報学」は学生が高校までにコンピュータ学習が開始されていることを考慮して、看護職者として必要な情報リテラシーについて学び、活用できるスキルを身につける科目として設定した。そのうえで「情報科学」として、統計学と情報処理の内容について、科目を設定した。
- 3) 「研究の基礎」は看護研究に必要な科目として基礎分野に位置づけて科目立てし、科学的思考の基盤とした。
- 4) 「人間工学」は、科学的思考の基盤として看護の視点である人間と生活の関係から人間や環境を科学的に捉える視点の科目として設定した。
- 5) 「生活支援論」は、日常生活に焦点をあて、物理的現象を理解した上で療養時・健康時・障害時を問わず望ましい環境を考え、環境整備と機器による生活支援の方法について学ぶ内容とした。
- 6) 「国際社会と健康」は、「社会学」の中で、国際社会に視野を広げる教育内容を含んでいるが、さらなる国際化への対応のため、科目を別にして国際社会の健康問題や医療に関する内容を設定した。
- 7) 「人間関係論」は、対人関係能力向上を目指して、基礎分野においても人間関係を学ぶ科目を設定した。まず、身近な友人関係、親子関係など社会に適応するための対人関係について学ぶ。同時に自己理解を深める科目とした。

2. 専門基礎分野

- 1) 人体の構造と機能は、「人体の構造演習」という科目設定して座学だけでなく、DVD やグループワークを通して自ら調べながら、身体全体を学ぶ内容とした。また人の生活や看護の視点から解剖生理学を学べるように教員が行う。
- 2) 「病態アセスメント演習Ⅰ・Ⅱ」という科目を設定し、身体のフィジカルイグザミネーションを学び、その技術を用いて症状・兆候から臨床判断できるような科目としている。
- 3) 「健康支援論」という科目では、対象の健康を支援するために、ヘルスプロモーション（人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセス）の考え方を理解し、生活習慣における健康を支える仕組みを自ら調べながら他者に説明することで理解を深めるために設定した。
- 4) 「保健医療福祉チーム演習」という科目は、多職種の役割と連携を学び、臨床を想定したペーパーペイシエントに必要な支援を考え、連携・協働の必要性が理解できる演習を行い、実践力を身に着けるために設定した。

3. 専門分野

基礎看護学

- 1) 「看護学概論」では、各看護学の基盤となる看護の主要概念、看護理論、看護の歴史などを学ぶ。
- 2) コミュニケーション能力、アセスメント能力の向上を目指して、ゴードンの人間の機能パターンを切り口とし、看護診断につながるアセスメントと援助の方法、その根拠を総合的に教授

する科目「生活アセスメント論」を設定した。また、「対象理解演習」として、模擬患者とのコミュニケーションを通し、コミュニケーションやケアリングの理論を学ぶ科目を設定した。

- 3) ロールプレイングやリフレクションの体験学習を通して看護におけるリフレクションの意義と方法を学ぶ内容として「リフレクション」の科目を設定した。
- 4) 看護過程を展開する能力を高めるため、「看護過程演習」を科目として設定した。
- 5) 「臨床看護総論」は、発達段階別の臨床看護を学ぶ前段階として、疾病の経過による特徴や、主に治療・処置を受ける対象の看護を学ぶために設定した。
- 6) 「診療援助基礎技術Ⅰ」では、検査時に必要な看護を学ぶ内容とし、「診療援助基礎技術Ⅱ」では、薬物療法を受ける患者に必要な看護を学ぶ内容とした。どちらの科目も医療事故につながる可能性があり、根拠に基づいた安全な看護技術を習得できるようにする。

地域・在宅看護論

- 1) 地域で生活することを理解するために、「地域・在宅看護概論Ⅰ」では地域の保健・医療・福祉について情報検索する内容を取り入れ、1年次から地域で生活する人々と暮らしを理解するとともに生活環境が健康に与える影響と様々な場での看護の基礎を学ぶ設定とした。「地域・在宅看護概論Ⅱ」では地域・在宅看護の概念や対象を理解する考え方を学ぶ。
- 2) 地域で提供される看護の実際を学ぶ科目として、「地域・在宅看護援助論Ⅰ」は日常生活援助技術を、「地域・在宅看護援助論Ⅱ」は医療処置技術を設定した。
- 3) 「地域・在宅看護方法論Ⅰ」は地域で療養する人とその家族への看護を具体的な看護展開で学ぶ設定とした。
- 4) 「地域・在宅看護方法論Ⅱ」は今後の多死社会を見据え、在宅における終末期の看護を学ぶ内容とした。

成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学

各看護学を「概論」「援助論」「方法論」「疾病論」を組み合わせ構成する。

- 1) 「概論」では、各対象の特徴及び看護の目的や役割について、ライフサイクルや性、精神レベルで基盤となる看護の考え方や理論を学ぶ。
- 2) 「援助論」は、各発達段階に特徴的な看護技術を学ぶ。
- 3) 「疾病論」は、医師によって各発達段階に特徴のある健康障害について学ぶ。
- 4) 「方法論」は疾病・症状を持つ各ライフサイクルにある対象の看護を学ぶ。
- 5) 各発達段階別看護については、症状別・治療処置別マトリックスを元に内容を精選し整理した。
- 6) 「成人臨床看護総論」は、がん医療の進歩に対応し、がんの診断・検査、初期治療、経過観察、再発・転移、終末期といった一連の経過を理解し、各過程の看護の実際と根拠を学ぶ。そして、急性期、リハビリ期、慢性期、終末期にある成人期の患者の看護について事例を通し学ぶ。グループワークやロールプレイを取り入れ、学生が主体的に学ぶ授業形態とする。

看護の統合と実践

- 1) 「看護総合マネジメント」として看護管理、災害看護、国際看護について学ぶ科目とした。
- 2) 「医療安全と看護倫理」は、医療安全に関する知識を深め、リスクに対する感性を高める内容と看護師として倫理的問題へのアプローチと患者の意思決定を支える看護師の行動を理解する科目とした。

3)「看護研究の実践」では、看護における研究の意義を理解し、看護に関する研究を実践する科目とした。

4)「看護実践演習」は、専門基礎分野や専門分野で学んだ内容をふまえ、臨床判断能力を身に付ける科目とした。

以上の科目は、講義だけでなく、シミュレーション学習、意見交換、プレゼンテーションを取り入れ、自己の考えを言語化し表現する力を身に付ける。また、他者の意見を理解し、看護に対する考えを深めるようにする。